

「今こそ!“伝統”のパラダイムシフト！」

旅 行に行きます。あなたはどこを選びますか？
国内なら、京都？金沢？飛騨高山？
海外だとしたら、カンボジア？モロッコ？
フランスのモン・サン・ミッシェルとか？
考えてみてください、好きな場所の共通点を。
…そう。伝統文化です。伝統を大切に
する地域は、私たちが惹きつけてやみません。
翻って、あなたの街はどうでしょう。
伝統文化を大切にしていますか？
「いやそんな伝統文化とか大上段に言われても」
「なんか古くさい感じがする」
分かりますよ、その気持ち。でも、ちょっと待って。
伝統文化の宝庫・石川県で、50年以上、
文化保存に尽力されてきた嶋崎丞氏と、
一緒に、気軽に、考えてみませんか？
伝統って、ほんとうに面白いですから。



嶋崎 丞 石川県立美術館館長

プロフィール

1932年生まれ。石川県立美術館館長。九州大学大学院修士課程修了後、石川県立美術館の前身の石川県美術館に学芸員として就職。専門分野は日本工芸史、日本文化史で著書も多数執筆している。芸術文化全般に関する見識も高く、文化財保護審議会専門委員、文化財の防災に関する調査研究協力者会議委員などを委嘱されている。2000年には、文化財保護法50年記念文化財保護功労者として文部大臣表彰を受けている。

実は：：「伝統文化は「最先端」?!

——戦前の西洋化、戦後の成長期以降、各地で文化が失われつつあると思います。しかし、黙って見過ごしてはいけません。まず、文化の重要性を教えてください。

「伝統という冠を持つもの、「伝統文化」「伝統芸能」「伝統工芸」などは、100年以上のときを経て、生活の中から育まれた重みを持つものだと思います。

つまり、長い時間をかけ、不必要なものをそぎ落とし、それぞれの時代に必要なものをブラッシュアップして、そのエキスが今日まで伝えられた。時代時代の最先端の集まりが、伝統文化なんです。

そしてそれは、それぞれの地域が持つ歴史や、気候風土などと密接に関わっています。「伝統文化＝地域の歴史」と言われる所以です。つまり文化が消えると、地域が育んだ歴史が消える、地域の個性が無くなり、無個性になってしまふ。バックボーンが消えてしまふんです。伝統文化の重要性は、そこにあるのだと思います。

時代の流れについて行けない伝統文化

——しかし現実には、伝統文化には厳しい状況ですよね。妙な言い方ですが、なぜ私たちは、伝統文化を難しく考えてしまい、大切にしないのでしょうか。

例えば農業の文化。一見、伝統文化のイメージとは違いますが、農耕の仕方、生活の様式など、平安時代も明治時代もほとんど変わらずに行われていた文化です。

茅葺き屋根の民家は、今でも江戸時代のままですよね。文化というものは、それくらいゆったーりとした時間の流れの中で育まれてきたんですね。先ほど申したような、

100年というスパン以上の、非常に長い時間です。伝統文化というものは、ゆったりとした時間軸にこそ合っている文化です。

だから戦後、特にこの20年ほどは、多様化され、どんどんスピードアップして西洋化が進んだことで、伝統文化が時代についていけないんですね。伝統文化と現代の整合性がとれなくなってきたんです。

それが、伝統文化が危機的状況にある大きな原因の一つだと思いますし、大きな問題だと思っています。

——だから私たちも、いつの間にか、伝統文化は古いものだ、と考えるようになってしまってますね。

私たちは、古いパターンこそが伝統文化だといぞ考えがちですが、そうではないと思うんです。決してそうではないんです。例えば原点が平安時代にある伝統文化であっても、それが鎌倉・室町と時代が移り変わる中で、その時代の考え方がプラスアルファになって今日まできている。本来変わるべきではないものをきちんと守りながら、その枝葉を時代にふさわしく変えてきたんです。

それが、あまりに急激にときの流れが変わるわけですから、伝統文化はついていけないでしょう。

例えば「加賀友禅」^{※1}の着物がありますね。あれは1年に一度ほどのハレの場で使われてきました。でも今は、ハレの場があまりにも西洋化されてしまった。背広を着るのが通例になってしまった。だから、友禅の売り上げも厳しい状態になってしまった。金沢の街には友禅がとても似合うにも関わらず、です。たまに目にする美しいものだと皆さん思われるのですが、では使うかとなると、なかなか難しいわけです。

だからこそ、今に生きる私たちは、伝統文化を今日的にどう変えていくべきなのか、真剣に考えていかなければならないと思います。「文化はこう使うべき」「友禅はこう使わなければ」ではなく、視点を変えてみるんです。でないと、伝統文化、つまり私たち自身が積み上げてきた生活の歴史そのものが無くなってしまいます。

伝統文化こそが地域の切り札だ！

——確かに私たちは今、時代についていくのに必死で過去を振り返る余裕が無いのかも知れませんが、やはり核の一つは地域の生活の歴史、つまり「伝統文化」になるのでしょうか。

やはり伝統文化を核に地域づくりを考えるべきだと思いますね。それを活かさなかつたら、その地域である意味がありません。伝統文化は、地域から生まれたアイデンティティーですから。生活の知恵が詰まっていますから。それを今日的な知恵で活かすことを、現代の人がやるべきなんです。「伝統文化だから、古いものだから」と敬遠するのはなくて、「なるほど、こうだからこうなったんだ」と見方を変えて見てみるんです。

お茶人の文化がありますね。「茶の湯」のセレモニーを行うための道具は、例えば水差しや茶碗など様々ある訳ですが、はじめからその目的のためにそういう意図で作られたものもありますけれども、本来は異なる意図のものを使うことが多々あるわけです。それが、【見立て】^{※2}です。

利休は、例えば犬のご飯茶碗だったかもしれない器に美を発見して茶の湯の世界の茶碗に持ち上げ、備前のとつくりを一輪挿しの花生けに使った。【見立て】^{※2}で、いかなれば付加価値を付けたわけです。そして、一気に文化と

※1「加賀友禅」
石川県に伝わる、国の指定伝統工芸品のこと。輪島塗や九谷焼、金沢金箔などと並ぶ代表的な伝統文化。

金沢市内を流れる浅野川で、工程の終盤に、余分な糊や染料を洗い流す友禅流しを行う職人が残っており、金沢市の風物詩として有名。

※2「見立て」
別の目的で作られたもの、古くから使われてきたものを、見方を少し変えたり全く異なる使い方で利用したりして、新たな価値観を与えたり、今に応用したりすること。
例えば利休以前は唐物茶碗が主流だったが、利休は雑器として使われていた高麗茶碗を使用し、それが文化として定着した。

して花開いていった。

伝統文化を現代的に見立てて考えた場合、古いタイプの伝統的なものを、伝統の枠にはまった使い方や見方をするのではなくて、今日的な生活の中に別の方法でそれを活かす訳です。使い勝手の面ですね。そうやっていけば伝統文化には素晴らしい知恵が蓄積されている訳ですから、伝統文化にはいろんな可能性があると思うのです。

それを、「伝統文化は難しいからよう分からん」って言うてね、近づかない傾向が今日の人たちにはある。もう少し関心を持ってほしいんです。そうすれば、伝統文化にはいろんな可能性があることに気付いてもらえるのではないかと思います。

——具体的には、例えばどのような見れば今日的な見方で生かしていけるのでしょうか。

例えば金沢では、「町家^{※3} 再生運動」という動きがありますね。町家って、あれは江戸時代の建造物です。その町家を、けっこう大勢の若い人が、現代美術を展示したり、もしくは住居として利用したりしているんです。

古い生活空間を今日的な生活空間として楽しんでいるんですね。

これも私は【見立て】だと思えます。古い生活空間だから昔ながらの生活をしなければならない、という規定など無いわけですからね。町家には、今みたいに水洗トイレも、ステンドレスの綺麗な流し台も無いわけですけども、色んなところを見てみますと、住居としての町家の機能は、ほんとうによく出来ていますよ。

今日的な感性で生活していく工夫を考えていけば、非常に楽しい世界が広がっている。空間自体は江戸時代の空間

であったも、それが非常に現代的な響きを持つようになってくる。

それから、加賀友禅の愛好家のクラブを立ち上げたんですが、かなりの人数が登録してくれています。「友禅の着物や浴衣を着て金沢の街を歩きませんか」「着物を着て来た方は入場料を割引します」と言うと、みなさん着物を着て金沢の街を歩いてくれる訳です。着物の貸衣装屋さんも人気を呼んでいます。古都に、着物の女性。素敵だと思いますか。

そういう若い人が最近出てきましたからね。わたしはそういう意味でも、金沢は面白い街だと思っています。

——「Cool Japan」などと言いますが、私たちが見ても、実は伝統文化はCoolなかも知れませんね。見方を変えれば伝統文化はほんとうに素敵ですよ。

金沢に限った話ではありませんが、成人式の女性の着物と袴。あれだって大正時代の格好をしていますよね。それが時代を超えて、いまに定着している訳ですから。皆さん実は無意識のうちに、伝統文化の魅力に気付いているはずなんです。意識していないだけです。

——聞いているだけで楽しい気分になりますね。最近は、観光立国を目指そうと国も声高に主張していますが、おっしゃったような地域づくりを各地で進めることが、実は観光の観点から見ても大きなアドバンテージを持つことにならないのですか。

その通りだと思います。例えば東京は、パリやロンドンよりももともとアメリカ的ですよね。まるでニューヨークです。ですからそういうところへやってくる、外国の

※3「町家」
金沢は戦禍にあつておらず、江戸時代の多くの武家屋敷が残っている。金澤町家は、江戸時代に作られた武家屋敷などの建造物の総称。
現在、行政や市民グループが町家の保存や再生、住まい探しの仲立ちを行っている。
住居だけでなく、ギャラリー、ショップ、飲食店など使用法は多岐にわたる。
一度利用してみるとその雰囲気の良いは格別で、金沢の大きな魅力の一つと言える。

人はがっかりするんです。

手前味噌のようで恐縮ですが、金沢を訪れた外国の方とお話しをすると、「ここに来てホッとしました」とよくおっしゃるんです。金沢は、伝統をうまく生かして生活と密着した伝統文化が息づいていると。だから金沢に来てホッとされるんだと思います。

—— 伝統文化というと難しいですが、私たちにとって心地よいものを残しながら、それを生かした地域づくりをすることが、暮らしやすく魅力的な街につながっていく訳ですね。

これまで述べたような私たちの行動の積み重ねが、地域の特色を生み出していくんです。金沢に来てみたら加賀百万石の文化がある、別の県や地域に行ってみたらまた異なる魅力的な文化があるというように、どこに行っても同じような街があるのではなくて、あそこに行きたい、住みたいという街を作ることが重要なのだと思うんです。そうすると、生活が豊かになっていく。観光に大きなアドバンテージを持つことになる。地域づくりに伝統文化が欠かせないという理由は、そういうことだと思っんです。

NHKがすべきこと ① 徹底的なアーカイブス化

—— そういった、伝統文化を残し、生かすために、NHKが出来ることは何なのでしょうか。

やはり、伝統文化に無関心な層が増えていくことは事実です。そのため、伝統文化はやせ細って根無し草になって絶えていってしまうのではないかとという危惧すら感じています。

そうした中で、伝統文化は地域を形作るエキスのなのだと



写真提供：金沢市 友禅流し

いうことを、地域の人に情報提供をしていくことが、まずは役割としてあげられるのではないのでしょうか。

例えば、『日本の民謡』※4 というラジオ番組があります。私はあれをよく聞いておりましてね。NHKはやはり視・聴ですよ、音で聞き、映像で見るといいことです。あの番組の民謡の集積というのはすごいものです。あれを聞けば、日本の民謡の伝統的なエキスをすべてまとまっている訳です。

言うなればデジタルアーカイブスのようなことになっていくのではないかと思うんですけれども、そういう仕事をNHKはずいぶんやってこられておりますし、世界文化遺産なんかもずいぶん番組を作っておられますから、あれなんかもう広い意味での伝統文化ですよ。

日本で言うと『新日本紀行』※5。あれもずいぶん録画しました。見直してみますと、金沢の回を見るだけでも、「たった十数年の間に、ずいぶん金沢の街も変わってしまったな」と気付かされる訳です。

そういうものを映像で見せて、いかに文化が大切なのかということを皆さまに関心を持っていただけるような番組づくりをする。そういうことをやっていたら、まずはNHKのいちばんの仕事じゃなかるうかと、私は思うんです。

視・聴・覚に訴えかける力やノウハウを持っているのはマスコミの皆さんですし、特にNHKの場合は、私はまずそれをお願いしたいなと思います。

※4 「日本の民謡」

毎週日曜日、午前11時から50分間、NHK FMで放送している番組。ペテランから若手まで第一線で活躍する民謡歌手の歌を、インタビュアーを交えながらお届けしている。

※5 「新日本紀行」

1960年代から80年代にかけて、18年半ほど続いたNHKの番組。本格的な紀行番組として、アウンサーが日本各地を訪ね、インタビュアーを交えて各地の風土を紹介した。過去の番組を放送する「NHKアーカイブス」でたびたび再放送され、現在は、『新日本紀行ふたたび』と題して、当時の場所や人を再び訪ね、日本の風土がいかに変わり、また不変であるかを描く番組としてよみがえっている。

——「もっとこうすべきでは」という希望はございますか。

現段階で、苦言のようなものはほとんどありません。かつて私も番組審議委員をやらせていただいていましたが、その頃から比べれば、申し上げたようなことはNHKは遙かに実現されておられると思います。

その点では、これからも文化のアーカイブスをどんどん進めていっていただければと思っています。

NHKがすべきこと ②アーカイブスを今に「見立てる」

——さらにやらなければならないことはなんでしょうか。

映像や音声の資料として、伝統的な文化を撮りためるいまの活動を継続しながら、撮りためたものを、今以上にもっと活用してもらいたいと思います。

昔のものを再放送してあげたい、ということではないと思うんです。『新日本紀行』に私は惚れ込んでいましたけれど、『新日本紀行ふたたび』のような番組をもっと放送していくべきだと思いますね。

——昔の映像をもっと活用するということでしょうか。

昔の映像をただ使うというよりも、昔の映像を通して文化の本質が見えてくる、という感覚でしょうか。

そういう活用の仕方はどうでしょう。現代の視点をコメントしながら、現代の視点で見せていく、ということをもっとやってほしいですね。

NHKがすべきこと ③現代という切り口で捉え直す

——お話を聞いていて少し反省した部分があるのですが、私もNHKの人間として伝統文化を放送することがありますが、ともすれば文化としてではなく博物学的にそれらを見てしまうことが多いのかもしれないと感じました。伝統文化を博物学的な一つのジャンルとして捉えるだけでは、正解は見えてこないですね。

伝統文化を取り上げるNHKの番組を見ると、「伝統文化はこんなにも素晴らしいものだっただよ」という見方の放送が多いような気がするんですね。いわば過去形で終わってしまう番組が多いことが、なきにしもあらずですね。それはそれでとても見どころがあつて参考になるのですが、それだけではなく、もっと先にいってほしいという気持ちがあります。

それは、現代の中に伝統文化をどう生かしていくか、その工夫やノウハウみたいな視点を、もっと持って欲しいという事です。

NHKで番組に関わっている人たちが、見方を変えてみてほしいんです。「伝統文化は古い伝統ではなくて、現代の進行形の文化なんだ」ということです。そうすれば、違う方法論も見えてくるのではないかなと。私はそう思っています。



ひがし茶屋街 写真提供：金沢市

冒頭にも書きましたし、最後の質問をするときも思ったのですが、やっぱり僕たちは、「伝統文化という小難しい響きに惑わされている」と痛感しています。

旅行に行ったときに楽しむもの。紀行ものの番組や本で心踊らされる事柄。それは、その地域の歴史や文化、風土に他なりません。

にもかかわらず、自分の国や地域のことになった途端、それがいきなり「伝統文化」という言葉に、突如として「昇格」してしまうんですね。で、思考停止になる。これは、成熟期を迎え、衰退期に入りつつある日本で生きていく上で、とっても不幸なことだと思います。だって、魅力のある街に生き、豊かな生活を送っていくためには、伝統文化は絶対に欠かせないんですから。

僕は報道系のPDですけれども、「ああ、これまで伝統文化って……と構えて見てしまっていたんだな」と強く、強く反省しています。

じゃあ、具体的にNHKは、私は何をすべきか。

……すみません、まだ僕の中に完全な答えはありません。でも、僕たちが、伝統文化への見方や捉え方を、ほんの少し変えてみる。それだけで、何かが大きく変わる気がするんです。『何かを変えようと努力する』。これって素敵なことです。あまり時間は無いけれども。

嶋崎さん、お忙しい中ほんとうにありがとうございます！僕は、目からウロコでした！